

あなたにとって、家族はどんな存在ですか

シリーズ1

家族の絆

きずな

親

によるわが子への虐待や引きこもりなどの家庭崩壊、いじめや自殺・少年犯罪の低年齢化など、家庭や地域での子どもへの教育力低下が大きな社会問題となっています。

子

どもたちの育つ環境は、以前と比べて大きく変わってきました。少し前の世代までは、大家族、3世代同居の家庭が普通でしたが、現在は、核家族化が進んでいます。また、かつて地域社会の連帯意識が強かったものが、今では地域の人間関係や連帯意識が希薄になってきています。こうした環境の変化が、子どもたちの成長に大きな影響を与えているといわれます。

人

間が生活を営む最小限の単位が家族です。かつて大家族と

地域社会の中で育った子どもたちは、人間としての基本的なルールやマナーを自然に身につけることができました。

他人のことを思いやること、大勢の人の中で自分たちは生きていくという意識を持つことができ、社会性を身につけることができました。

七

尾市と七尾市社会教育委員では、家庭教育の重要性を再認識してもらうため、「家族の絆」をテーマとしたエッセイを募集しました。今月からシリーズで最優秀作品と優秀作品を紹介していきます。

これらの作品を読んで、一人ひとりが「家族とは何か。」を考え、「お互いを思いやり、支え合う心」を育むきっかけになることを願います。



■家族の絆 エッセイ作品審査結果

七尾市在住および七尾市内に通勤・通学している方を対象に募集したところ、1,017作品の応募があり、審査の結果、最優秀賞（1点）、優秀賞（7点）、佳作（25点）が選ばれました。

入選作品は、11月17日（土）七尾サンライフプラザにおいて開催する「豊かな心を育てる七尾市民のつどい」で紹介します。なお、最優秀作品は、中島高校演劇コースの生徒による10分間ドラマのビデオを作り、上映します。

【最優秀賞】

朝日中学校3年

竹森 真美さん

【優秀賞】

中島小学校2年

山下 千奈さん

天神山小学校6年

高橋 理子さん

東部中学校1年

三浦 さとみさん

東部中学校1年

林田 侑里子さん

能登島中学校2年

平山 ひかりさん

田鶴浜高校1年

今枝 かおりさん

南藤橋町（一般）

佐藤 佳世子さん

最優秀作品

「ありがとう」

朝日中学校3年 竹森 真美

私は、友だちの父親がうらやましいです。父とはあまりしゃべりません。話しかけてもあまり会話が續かないし、あまり話しかけてくれない。私の言う事に否定し、全くとっていいほどほめてくれない。私はそんな冷たい父が好きではありません。「家族なのに……。」と何回も思ってため息をつく事があります。そんな冷たい父に、冷たく接している自分がいます。テストで良い点数を取り、喜んで報告しても、母はほめてくれるけど、父は、「もっと努力しないと。」と逆にもっと勉強しろと怒られます。そういう父にキレてしまい、ひどい口ゲンカになってしまった日々がありました。「お父さんにとって私ってどういう存在なんだろう……。」と感じることもあり、顔を見るのも嫌になる時がありました。



ある夜、寝室に行く時、父と母の話し声が聞こえました。「ほめてやってよ。がんばったんに結果出てスゴイヤんか。」そして父は、「甘やかしたらダメ。これからキツくなっていくんやから。」「大人に近づくんやから、こういう態度もアイツには必要ねんや。」涙が出てきました。一番考えてくれたのは、父なのかなと思えました。本当の優しさを与えてくれたのは父。そんな大切な父に面と向かって、笑顔で『ありがとう』と言いたいです。

竹森真美さんに聞きました。

Q 普段のお父さんは厳しいですか？
A はい。行儀や食事のマナーなどしつけに厳しいです。

Q 冷たいと思っていたお父さんの本当の気持ちがあったときどう思いましたか？
A 「ありがとう。」という気持ちと「ごめんなさい。」という気持ちがかみ上げてきました。

Q その後、お父さんに対する気持ちは変りましたか？
A はい。怒られたときは辛い気持ちにもなるけど、自分のためを思っ

て言ってくれていると理解できるようになり、良かったと思っています。

取材日記

竹森真美さんは、3世代家族の中で育ちました。将来の夢は、国際交流に関わる仕事をすることだそうです。これは、海外を旅するのが好きなお父さんの影響のようです。

普段は厳しいお父さんでも、エッセイからもわかるように家庭の中の役割が決まっています。家族の和が保たれているように感じました。

☆エッセイに関するお問い合わせ

生涯学習課 ☎68-6595